

ハイライト:

- 平成22年度日本ELVリサイクル機構の社員定期総会が開催されました
- 平成22～23年度の日本ELVリサイクル機構役員人事が承認されました
- 経済産業省が次世代自動車戦略2010を公表しました
- JAERAニュースレターが変わります
- エアバッグ作動処理～不適正処理に新たな措置～

1. 日本ELVリサイクル機構の平成22年度社員総会開催される

日本ELVリサイクル機構の平成22年度社員総会が、5月27日(木)、品川プリンスホテルにおいて開催されました。13:00に開会した総会では、平成21年度の事業報告、会計報告が承認され、その後、平成22年度より向こう二年間の理事候補者が提示され、全会一致で18名の新理事メンバーが承認されました。総会はその後一時中断され、その間に、新理事による臨時理事会が開催されて、栗山義孝氏を代表理事に選任しました。再開した総会では栗山新代表理事が挨拶に立ち、新たに設置する常任役員会メンバーを発表するとともに、機構の活動強化、組織強化が急務であり、そのためには、全役職員、会員による「全員野球」を進めたいこと、広報活動の充実に取り組むことなどをアピールしました。総会ではその後、新体制による平成22年度の活動方針案、予算案を承認し14:00に閉会しました。

2. 平成22年度役員顔ぶれ

代表理事	栗山 義孝	
副代表理事	伊丹 伊平	榎本 擴
	大橋 岳彦	吉川 日男
理事・総務部会長	木内 俊之	
理事	高橋 敏	平地 健
	金澤 寿幸	宮下 昌之
	金森 弘元	高野 和徳
	和気 達夫	三木 康弘
	辻 隆雄	垣花 善則
	清水 信夫	羽鳥 貞雄

3. 栗山新代表理事のメッセージ

この度、日本ELVリサイクル機構平成22年度総会が開催されました。本年1月に、酒井清行前代表理事が急逝され、また、退会者の増加などによる財政的な問題を抱え、大変厳しい局面に直面している機構にとって、再出発を期すためにも大変重要な総会となりました。今回の総会で全社員の信任を受けた新執行部が、向こう二年間の機構運営を担うこととなります。今回、承認を受けた18名の理事の中から、代表理事として栗山義孝(関東中)が選ばれ、伊丹伊平(北海道)、榎本擴(関東中)、大橋岳彦(リ協)、吉川日男(中国)の各氏が副代表理事に就任しました。以上5名と、木内俊之(関東東)総務部会長の6名で構成する常任役員会が今後、機構運営のかじ取りをすることになります。■

■私はこの度の総会で、いくつかの重点事業の方向付けを行いました。先ず第一に、これまでも実施してきたインストラクター研修制度の更なるレベルアップです。機構会員の全てが、法律を順守し、高度かつ有効な解体・適正処理を実現するよう、自動車メーカー、関係団体などの協力も得て、制度の強化を図ります。次に、機構の広報活動の強化です。今後いろいろ検討してまいります。先ず第一に、機構本部と一般会員間の、活発な双方向の情報授受が挙げられます。日頃から、機構は一体どんな活動をしているのだろうか、自分たちに必要な情報がなかなか来ないし、また来ても遅い、とのご不満を持っておられる会員の方々は決して少なくないと思います。その解決策として、例えば、このニュースレターの発行頻度の増加、内容の充実などに努力します。また、情報の一方通行を排し、会員の皆様からのご意見を吸い上げることも重要なことと認識しています。各地の会員の皆様が抱える問題などに対し、強力なアンテナを張って、一緒に解決の手段を見出していくことを考えたいと思っています。第3は、より開かれた機構に転身していくよう、役員、職員が最大限の努力を惜しまないのと言うまでもなく、会員の皆様からの間接・直接の情報提供、問題提起を強く期待します。そのためには、地域団体やブロックのさらなる活用が必要です。機構では、各ブロック長との連携を一層充実させ、会員各位との間により太いパイプが設置されるよう不断の努力を怠りません。その他、色々な活動を展開する▲

目次:

日本ELVリサイクル機構 定期社員総会開催	1
日本ELVリサイクル機構 新役員の顔ぶれ	1
栗山新代表理事メッセージ	1
次世代自動車戦略2010	2
ニュースレターの配信	2
故酒井清行氏を偲ぶ会	2
エアバッグ作動処理について	2
編集後記	2

▲ことができるよう、全員参加型、問題解決型の機構運営を目指しますので、会員各位のご協力、ご理解をお願いいたします。最後になりましたが、私は、日本ELVリサイクル機構の運営は、『全員参加』型で行うべきと考えております。機構役員はもとより、地域団体、各会員の全てが、機構の運営に参加することが重要だと思っています。一握りの役員だけが機構のことを考えるのではなく、機構に参加する全ての方々に、「我々の機構、自分の機構」という思いを持ち、機構全体の発展が、我々それぞれの発展に繋がるとの思いを持っていただきたいと思っています。皆で育んだ機構に素晴らしい果実が実るよう、一緒に頑張りましょう。



就任のあいさつをする
栗山義孝新代表理事



日本ELVリサイクル機構
平成22年度定期社員総会

<発行者>
一般社団法人日本ELVリサイクル機構 広報チーム
〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル5F
tel 03-3519-5181 fax 03-3597-5171 e-mail jaera-office2@clock.ocn.ne.jp

4. 次世代自動車戦略 2010年

経済産業省では、かねてより『次世代自動車戦略研究会』を設置し、自動車や関連産業の中・長期的な対応のあり方に関する新しい戦略の構築をする意図で検討を行ってまいりましたが、去る4月12日、その概要を公表しました。地球環境や資源制約に対するグローバルな関心の高まりを踏まえ、次世代自動車の本格的な市場導入を促すもので、昨年11月に立ち上げた、産業界・学界・政府関係者で構成される研究会において研究がおこなわれてきました。同研究会に設置された「自動車全体戦略WG」、「電池戦略WG」、「EV/PHVインフラ整備WG」など各ワーキンググループ(WG)が行った検討結果は、6つの、それぞれ目標を持った戦略にまとめられています。その中、レアメタルの確保並びに資源循環■

■システムの構築を目標とする「資源戦略」では、戦略的資源の確保、レアメタルフリー電池並びにモーターの開発、電池リサイクルシステムの構築をアクションプランとして掲げており、自動車解体業界にも役割が振当てられるなど、業界に対する期待が高えます。機構では、経産省との連携を図り、今後の展開につき情報の入手に努めてまいります。なお、次世代自動車戦略2010に関する詳細情報をご希望の向きは、以下の経産省ホームページ掲載資料をご覧ください。

- ・ニュースリリース
<http://www.meti.go.jp/press/20100412002/20100412002-1.pdf>
- ・次世代自動車戦略2010(概要)
<http://www.meti.go.jp/press/20100412002/20100412002-2.pdf>
- ・次世代自動車戦略2010報告書
<http://www.meti.go.jp/press/20100412002/20100412002-3.pdf>

6. 故酒井清行氏を偲ぶ会

5月27日の日本ELVリサイクル機構定期社員総会の後、去る、1月31日に急逝された、当機構の前代表理事、酒井清行さんを『偲ぶ会』が、総会会場の品川プリンスホテルで開催されました。酒井さんと生前に交流のあった各界の方々、多くの機構会員など200名を超える方が集い、共に酒井さんを偲ぶ一時をもちました。

偲ぶ会では、黙祷に続き、機構を代表し寺谷前代表代行がご挨拶をされ、その後、酒井さんと、長年にわたり業界の全国団体設立にご苦労された、北口、南両機構相談役がお別れの言葉を述べられました。お二人より遥かに若かった酒井さんの突然の死は、苦労を共にしてこられた業界長者にとり本当につらく悲しいものであったことが、参列者の心に沁みわたるお言葉でした。その後、会員の若手たちが手作りで仕上げた映像がスクリーンに映し出され、酒井さんのあの笑顔に目頭を押さえる人もおられました。最後に、ご遺族からのご挨拶がありました。特に美登里夫人の、「生前、いつも飛び歩いて何しているのかよく解らなかったが、亡くなって、葬儀や弔問に来られた業界関係者から、主人が業界のためにどんな働きをしていたかを知り、今では、亡き主人を心より誇りに思っています」とのお話があり、胸を熱くされた参列者も少なくなかったのではないのでしょうか。(編集子)



お別れのあいさつをされる北口相談役



お別れのあいさつをされる南相談役



ご挨拶をされるご遺族

5. ニュースレターの配信

日本ELVリサイクル機構では、新年度の重点取り組みに、加盟会員に対する情報発信機能を拡充することを掲げております。5月28日に開催した今期第一回目の常任役員会では、早速ニュースレターの発行を決定し、本号を、その第一号としてお送りします。今後は、原則隔週にインターネットで配信いたします予定で、継続して受信ご希望の会員は、下記事項をメールに記載いただき、次のメールアドレスに宛てて発信いただくようお願いいたします。

jaera-office2@clock.ocn.ne.jp

今後、このニュースレターは、日本ELVリサイクル機構の広報チームが手作りで作成、配信するため、しばらくの間は発行頻度、記事内容が不安定になることもありますが、予めご了承ください。

～配信申し込みに記載いただく事項～

- ・受信ご希望者社名/団体名
- ・ご担当者名
- ・メールアドレス
- ・ご利用のパソコンOS(もし分かれば)

7. エアバッグ作動処理について

自再協では、昨年10月に「エアバッグ類車上作動車同業務規約」の一部改定を行いました。このたび、更に、車上作動処理時の事故等の根絶に向け、不適正な車上作動処理が発見された場合、作動処理業務の一時停止ならびに登録取消を含む措置が6月1日(火)より実施されることを発表しました。

自再協が発表した新たな措置に関する情報の詳細は、以下のURLより検索できますのでご利用ください。

<http://www.jarp.org/pdfs/information/20100522A.pdf>

エアバッグ問題につきましては、不適正処理の他、かねてより、一部破砕業者から、シュレッダー処理中に作動音が聞こえる、等のクレームが政府の審議会等に寄せられており、自再協では、その防止についても対策の徹底を図ろうとしており、先ごろも、未作動エアバッグを破砕工程に引き渡した解体業者に対して、作動処理契約を解除(登録取消)を行われた事例も発生しております。

機構では、今後自再協に対して、規約内容の変更に関する説明会開催を含む、十分な指導と変更内容の周知等につき要請を行うことを検討していますが、会員各位におかれても、社内で再度安全作業の点検ならびに徹底を図られるようお願いいたします。

今後、エアバッグ装着車両並びに装着個数が増加していく中、エアバッグの取り外し回収で対応せざるを得ないよう、十分ご注意ください。

<編集後記>

- ◇ 平成22年度の定期社員総会が開催されました。機構設立から数え、いよいよ6期目が始まりました。短いようで長かった6年間の内にはいろいろなことが起こりました。慣れないり法に右往左往することが多かった初年度、素材市況の高騰と大下落、リーマンショックが引き金となった世界同時不況。後世の歴史に残る大変な時期でした。
- ◇ 機構にとっても、編集子個人にとっても大変悲しい出来事は、今年一月末、長年業界のために尽くしてこられた酒井清行さんに訪れた突然の死です。酒井さんに接した人は、皆さん彼の笑顔と熱意に打たれました。そんな酒井さんを偲ぶ会が開催され、大勢の参列者がお別れをしました。ご冥福をお祈りします。

- ◇ 今期の社員総会が開催され、当初から、酒井さんと共に業界活動を続けてこられた栗山義孝さんが代表理事に選出されました。二年前、一線を引かれて相談役にいられた栗山さんにとって、再度一線に戻られるのは、おそらく大変なご決意が必要だったことが想像できます。新役員も、皆で栗山さんを支えていこうと決意を新たにされた船出となりました。会員の皆さまのご協力が期待されています。栗山さんのメッセージにもある通り、「自分たちのELV機構」との心構えで代表並びに執行部を支えて下さい。
- ◇ 最近気に入っている言葉に『地球一個分の暮らし』というのがあります。どんなに望んでも、しょせん我々には地球一個しかありません。この地球を次の世代に素晴らしいままで引き渡せるか・・・(編集子)